一人ひとりの個性と可能性を引き出す新世代の教育を展開

2010年より教育のICT化に取り組んできた瀧野川女子学園。ICTを積極的に活用することで、授業は一人ひとりの「わかる」「できる」を確認しながら2倍以上の効率で進み、時間に余裕ができたからこそ、個性と可能性を引き出す新世代の教育ができているという。同校がめざす教育について、山口龍介副校長にお話をうかがった。

変わる大学入試に対応し新世代入試で4倍の実績

2021年に始まった大学入試改革。センター試験から大学入試共通テストへの移行ばかりが大きく取り上げられてきたが、「入試方式の見直しにこそ注目すべき」だと山口龍介副校長は言う。

「私大入試では入学定員の半数以上が『総合型選抜』や『公募推薦型入試』で選抜されており、国公立大でも、近い将来3割を占めると言われています。これは、〝ペーパーテスト至上主義〟からの脱却を意味しています」

世の中に新しい商品や新しい仕事を仲間と共に生み出すことのできる女性を育てる創造性教育

〝明治以来の教育改革〟と言われる今回の改革は、「実社会で世界を相手に活躍できる若者を育てて欲しい」という実業界からの要望を受けたものだ。大学教育が変化したことで、入試で重視されるポイントも変わってきた。受験生の能力・適性や学習に対する意欲、高校生活における学業成績や課外活動への取り組みなどを重視する選抜方法は、よりその大学での学びに適した受験生を「採用」しようとの考えの現れだ。

瀧野川女子学園では、そうした流れをいち早く察知、新しい入試方式を積極的に活用しながら、きめ細かな進路指導を行ってきた。その結果2021年度入試では、総合型選抜で前年比4倍、公募推薦型では前年比2・6倍の合格実績を記録。四年制大学への進学を希望する生徒の約8割が、国公立大学をはじめとする希望する大学に、年内に現役合格を果たしている。

「こうした結果を残せたのは、本学園の教育形式が、大学入試に有利に力を発揮しているからだと考えています」と山口副校長はそう強調する。

もともと瀧野川女子学園は、「今までできなかったことができるようになる場所、将来の可能性がどんどん広がる楽しい場所を作りたい」という思いから設立された学校だ。そのため体験を重視し、「これから学ぶことが実際にどのように役に立つのか」を理解することに重きを置いている。そうした学びの先に、同校の独自の科目である「創造性教育」や「ゼミ制度」がある。

「先述したように本校ではICT化を積極的に進めることで、わかりやすく伝えやすい授業を展開し、効率の良い学びを実現しました。そうしてできた時間でもっと皆で話し合い、考える時間や、文章で自分の考えを伝える勉強、そして将来の仕事に向かって力をつけていく新しい授業ができるようになったのです。創造性教育の集大成となる高2では、仲間と出資して自分たちの会社を作り、オリジナルの商品開発に取り組みます。こうした生きた学びが、本校のめざす教育です」（山口副校長）

副校長 山口 龍介 先生

オールイングリッシュで海外大学進学にも対応

さらに2021年度から、瀧野川女子学園の英語教育が大きく変わった。日本人教員と7人のネイティブ教員がチームを組み、オールイングリッシュで生徒の4技能（聞く、話す、読む、書く）を伸ばす教育を展開していく。

「英語で英語を教え、英語で学ぶことにより、『使える英語』を身につけるのが目標です」と山口副校長。1年から4年間で中高で学ぶ英語を学び終え、4年が終わるころには海外大学に進学できるレベルをめざすという。

「我々教員は、決してスーパーマンではありませんが、生徒の持つ個性や可能性を引き出し、伸ばすことが教員の役割だと信じ、真摯に生徒と向き合っています。生徒には本校で知らなかった自分と出会い、新たな未来へと歩んでもらいたいですね」（山口副校長）

お問い合わせ 瀧野川女子学園中学高等学校 TEL.03-3910-6315

説明会・公開行事についてはHPにてご確認をお願いします。

本記事は『日経ビジネス／日経トップリーダー特別版 AUTUMN.2021〈東京ストーリー教育特集号〉（日経BP社）』に記事体広告として掲載されたものです。